

※内閣府では、「アジア青年の家」のスケジュールや講師陣からのメッセージ、参加者による日々の活動日誌などを紹介したホームページを公開しています。アドレスは <http://ayepo.go.jp/>



シュノーケリングツアー（渡嘉敷）



県内視察（首里城）

③第2ステージ（自然環境を体験する）（8／11～8／15）

参加者一行は渡嘉敷島に渡り、シユノーケリングなどの体験プログラムを通じ、島の大自然に触れるとともに関連講義を受けることにより環境に関する問題意識の確立、また広大な施設を利用したスポーツやキャンプファイアなどにより交流を深めました。



毛利衛氏との意見交換（名桜大学）

23 ⑤ホームステイ（8／21～8／23）
伊江島での生活体験や農業・漁業等の体験を通じて、多様な文化、慣習を肌で感じました。また、バイオエタノールプラン트も見学しました。



グループディスカッション

今後行うことなど沖縄発のメッセージをまとめました。

この「アジア青年の家」は、まさにその一つの契機であって、この活動が着実に成果を積み重ねていくことでイノベーティブマインドやベーティブマインドを如何に育むかがカギとなります。

この「アジア青年の家」は、まさにその一つの契機であって、この活動が着実に成果を積み重ねていくことでイノベーティブマインドやベーティブマインドを如何に育むかがカギとなります。

（4）第3ステージ（環境と科学技術）（8／16～8／21）
第2ステージで得た問題意識を踏まえ、日本科学未来館館長・宇宙飛行士の毛利衛氏の講義、ローテーションプログラム（沖縄高専、海洋研究基盤整備機構、沖縄科学技術研究基盤整備機構）や企業（トヨタ自動車、新日本石油、富士ゼロックス、SHARP、帝人）の取組紹介を通じて環境と科学技術の関係について学習しました。また、沖縄の伝統文化、芸能にも親しみました。

⑥第4ステージ（成果構築）（8／24～8／27）

宮古総合実業高校による環境に関する取組紹介、科学者の語る夢・未来をテーマにした「一流科学者による「科学者シンポジウム」、環境税やサマータイムを題材とした昭和薬科大附属高校・中学校とのディスカッションのほか、これまで学習したことを踏まえ、グループのディスカッションを中心に、環境問題の現状認識や、自分たちで今後行うことなど沖縄発のメッセージをまとめました。



文化発表

4 おわりに

（7）閉会式（8月27日）
名護市の万国津梁館において執り行われた閉会式において、参加者による成果発表が行われました。引き続き、今回のプログラムの全日程を終えた参加者に対する熱いメッセージが、「アジア青年の家構想推進に係る有識者会議」の有馬朗人氏から送られました。